

難関資格の最短ルート、

アガルート

|受|講|相|談|限|定|

最短合格 学習ガイドブック

司法書士試験

司法書士試験

合格ハンドブック

AGAROOT ACADEMY

目次

はじめに

第1部：司法書士試験の全体像と学習の基本戦略

1. 司法書士とは
2. 司法書士試験の概要
3. 試験科目と配点
4. 合格に向けた学習戦略の要点

第2部：合格へ導く学習カリキュラム戦略

- 全体構造編
- 入門総合講義（肢別過去問集、書式ひな形集付属）
- 択一過去問解説講座
- 記述解法ベーシック講座
- 記述解法マスター講座
- 記述過去問解説講座
- 記述・択一パーフェクト12
- 実力確認答練
- 模擬試験
- 重要法改正総ざらい講座

第3部：合格後のキャリアと実務

1. 独立開業までの流れ
2. 組織内での活躍（勤務）
3. 先輩合格者の声
4. 合格後に必須となる「実務能力」

はじめに

本ハンドブックは、これから司法書士を目指して学習を始めるあなたのための道しるべです。難関国家資格である司法書士試験の全体像から、合格へ向けた具体的な学習戦略、そして合格後のキャリアパスまでを網羅的に解説します。この一冊が、あなたの合格への道のりを力強くサポートできれば幸いです。

第1部：司法書士試験の全体像と学習の基本戦略

1. 司法書士とは

資格の位置づけと社会的役割

司法書士は、法務大臣が認定する国家資格です。主に不動産登記や商業登記といった、国民の財産や権利を守るための手続きを代理する専門家であり、その専門知識は法律によって担保されています。

「くらしの法律家」「街の法律家」とも呼ばれ、相続、不動産売買、会社の設立など、私たちの生活やビジネスに密着した場面で法的なサポートを提供します。弁護士が主に「紛争解決」の専門家であるのに対し、司法書士は「紛争を未然に防ぐ」手続きの専門家として、社会で非常に重要な役割を担っています。その専門性と信頼性から、業界での評価は非常に高く、独立開業も目指せる資格です。

キャリアパスと将来性

資格取得後は、司法書士事務所への勤務が一般的ですが、経験を積んで独立開業する人が多いのが特徴です。また、企業の法務部で専門知識を活かしたり、司法書士法人を設立して組織的に事業を展開したりと、キャリアパスは多岐にわたります。

AI技術の発展が注目される中でも、複雑な権利関係の整理や、個別の事情に応じたコンサルティング業務は、人間にしかできない高度な専門業務です。そのため、司法書士の仕事は将来性が高く、今後も社会から求められ続ける魅力的な職業と言えるでしょう。

2. 司法書士試験の概要

試験の基本情報

- 受験資格: 年齢、学歴、国籍などの制限はなく、誰でも受験できます。
- 試験日: 年1回、7月の第1日曜日に実施されます。
- 申込期間: 例年、5月上旬から中旬頃までです。
- 合格発表: 筆記試験が9月下旬～10月上旬頃、口述試験が10月中旬頃、最終合格発表が11月上旬頃です。

近年の試験結果

司法書士試験は合格率が例年**4～5%**で推移する難関国家資格です。しかし、これは記念受験者なども含めた数字であり、真剣に学習を継続した受験生の中での合格率はもっと高くなります。正しい戦略で努力すれば、必ず合格は見えてきます。

年度	申込者数	受験者数	合格者数	合格率
令和5年	16,133人	13,372人	695人	5.2%
令和4年	15,488人	12,727人	660人	5.2%
令和3年	14,988人	11,925人	613人	5.1%

令和2年	14,431人	11,494人	595人	5.2%
------	---------	---------	------	------

※法務省の公表データより

合格基準

司法書士試験の合格には、以下の2つの基準を両方とも満たす必要があります。

1. 相対評価: 総合得点が、合格者全体の成績を基に決定される「合格点」を上回ること。
2. 絶対評価: 試験には「基準点(足切り)」が設けられており、以下の3つの区分すべてで基準点以上の得点を取ること。例年、各区分の満点の7割程度が目安となりますが、年度によって変動します。
 - 午前の部(択一式)
 - 午後の部(択一式)
 - 午後の部(記述式)

つまり、総合得点がどんなに高くても、1つでも基準点に満たない区分があれば、その時点で不合格となってしまいます。すべての科目でバランス良く得点する力が求められます。

3. 試験科目と配点

試験は「午前の部」と「午後の部」に分かれており、1日で筆記試験が行われます。

試験区分	形式	科目	問題数	配点
午前の部 (120分)	択一式	憲法 民法 刑法 商法(会社法)	3問 20問 3問 9問	105点 (35問×3点)
午後の部 (180分)	択一式	民事訴訟法 民事執行法 民事保全法 司法書士法 供託法 不動産登記法 商業登記法	5問 1問 1問 1問 3問 16問 8問	105点 (35問×3点)
	記述式	不動産登記法 商業登記法	1問 1問	70点
合計			72問	280点

各科目の学習内容

- 民法: 契約、相続、家族関係など、市民生活の基本的なルールを定めた法律。学習範囲は膨大ですが、すべての科目の土台となります。
- 不動産登記法: 土地や建物といった不動産の権利関係を公示(記録)するための手続き法。誰が所有者なのか、担保は設定されているかなどを記録するルールを学びます。
- 商業登記法: 会社の設立や役員変更など、会社に関する情報を公示するための手続き法。会社の信用を維持するためのルールを学びます。
- 商法(会社法): 会社の設立、運営、組織に関するルールを定めた法律。
- 憲法: 国の最高法規。基本的人権や統治の仕組みについて学びます。
- 刑法: 犯罪と刑罰について定めた法律。
- 民事訴訟法など: 裁判手続きや権利の実現に関する一連の法律。
- 司法書士法・供託法: 司法書士の業務や、金銭などを国に預ける供託制度に関する手続き法。

4. 合格に向けた学習戦略の要点

学習時間と基本サイクル

司法書士試験の合格に必要とされる学習時間は、一般的に約**3000時間**が目安です。これはあくまで目安であり、大切なのは時間の長さよりも「学習の質」です。

知識を試験で使える「武器」にするためには、以下の学習サイクルを高速で繰り返すことが最も効果的です。

1. **インプット(理解)**: テキストを読み、講義を聞いて、法律の基本的な考え方やルールを理解する。
2. **アウトプット(実践)**: すぐに該当範囲の過去問を解く。知識がどのように問われるかを知り、自分の理解度を確認する。
3. **フィードバック**: なぜ間違えたのか、なぜ正解できたのかを分析し、テキストに戻って知識を再確認・深化させる。

「テキストを一周してから過去問へ」という進め方では、最初の内容を忘れてしまい非効率です。单元ごとに「インプット→アウトプット」をセットで行うことを徹底してください。

科目別の攻略法

主要科目の攻略

- 民法・不動産登記法・商業登記法・会社法の主要4科目に、学習時間の**7~8割**を投入する意識を持ちましょう。これらの科目を制することが合格への最短ルートです。
- 特に民法は、すべての科目の基礎です。時間をかけて丁寧に、条文や判例の背景にある「なぜそうになっているのか」という理由まで理解するよう努めましょう。

特徴的な出題形式への対策(記述式)

- 記述式問題は配点が大きく、対策の有無で大きく差がつきます。しかし、これは全く新しい知識を問うものではなく、「択一式で得た知識を、具体的な事例に当てはめて答案を作成する」応用問題です。

- まずは択一式の知識を固めることが最優先です。その上で、登記申請書の基本的な型(ひな形)を正確に暗記し、多くの問題演習を通じて、問題文から情報を正確に読み取り、答案に反映させる訓練を積み重ねましょう。

基準点(足切り)対策

- 憲法、刑法、民事訴訟法などの科目は、配点が低いからといって軽視すると基準点割れのリスクがあります。
- ただし、深入りは禁物です。これらの科目の目標は「満点を狙うこと」ではなく、「確実に基準点をクリアすること」です。過去問で頻出の論点に絞って学習し、効率的に得点源にしましょう。

各科目の対策

- 民法: 理由付けを意識し、体系的に理解する。
- 不動産登記法: 択一と記述を関連付けて学習する。手続きの流れをイメージすることが重要。
- 会社法・商業登記法: 会社法(実体法)と商業登記法(手続き法)はセットで学習する。こちらも手続きの流れを意識する。
- 憲法: 判例の結論と理由をセットで押さえる。
- 刑法: 具体的な事例に条文を当てはめる練習をする。
- 民事訴訟法: 手続き全体の流れを掴むことが最優先。
- 民事執行法・民事保全法: 民事訴訟法との関連を意識する。深入りは禁物。
- 司法書士法: 条文を素直に読み込む。得点源にしやすい科目。
- 供託法: 手続きの種類ごとに整理して覚える。

近年の出題傾向と応用力の強化

近年の試験では、単に条文や判例を知っているだけでは解けない、現場思考型の応用問題が増加しています。未知の問題に直面した際に、その場で考え、持っている知識を組み合わせ、正解を導き出す「応用力」が問われています。

この応用力を養うためには、普段の学習から以下の点を意識することが有効です。

- 「なぜ？」を常に考える: 条文や制度の趣旨・背景を理解することで、知識が立体的になり、応用が利くようになります。
- 知識を関連付ける: 例えば、民法の知識が不動産登記法でどう使われるか、といった科目間のつながりを意識しながら学習を進めましょう。
- 質の高い問題演習: 過去問だけでなく、予備校が作成した応用問題など、少し難易度の高い問題にもチャレンジすることで、思考力が鍛えられます。

第2部: 合格へ導く学習カリキュラム戦略

司法書士試験の合格には、膨大な学習範囲を計画的に、かつ段階的に攻略していくカリキュラムが不可欠です。ここでは、インプットで知識の土台を築き、アウトプットで得点力を高め、最後に本番を見据えた実戦力を完成させるという、合格者の学習フローに基づいた各講座の役割と活用法を解説します。

カリキュラムの全体像と各講座の役割

講座名:全体構造編

- 役割・獲得目標:
本格的な学習に入る前の準備運動です。各科目がどのような法律で、何を目的としているのか、その全体像を掴みます。法律学習の全体像を把握し、学習の羅針盤を手に入れることが目標です。
- 効果的な学習法:
まずはリラックスして視聴し、全体像を掴むことに集中しましょう。細かな点は気にせず、これから学ぶことの地図を描くようなイメージで取り組むのが効果的です。

講座名:入門総合講義(肢別過去問集、書式ひな形集付属)

- 役割・獲得目標:
合格に必要な知識をゼロから体系的にインプットする、カリキュラムの中核です。基本的な問題に対応できる盤石な基礎力を確立します。付属の肢別過去問集や書式ひな形集と連動させることで、知識の定着を図ります。
- 効果的な学習法:
第1部で解説した**「インプット(講義)→アウトプット(付属の肢別過去問集)」のサイクル**を徹底することが最も重要です。講義を聴いたらすぐに該当範囲の問題を解き、知識がどう問われるかを確認する作業を繰り返しましょう。

講座名:択一過去問解説講座

- 役割・獲得目標:
択一式問題に特化し、過去問を徹底的に分析・演習します。知識の精度を高め、正解を導き出すための思考プロセスを学び、確実に得点できる能力を身につけることが目標です。
- 効果的な学習法:
ただ正解するだけでなく、不正解の選択肢が「なぜ」「どこが」誤りなのかを自分の言葉で説明できるレベルを目指しましょう。これを繰り返すことで、知識が盤石になります。

講座名:記述解法ベーシック講座

- 役割・獲得目標:
記述式対策の第一歩です。答案作成の基礎となる不動産登記・商業登記それぞれの申請書の基本的な型(ひな形)を正確に習得し、答案の骨格を作る力を養います。
- 効果的な学習法:
まずは基本的なひな形を何も見ずに書けるレベルまで、実際に手を動かして徹底的に暗記・記憶します。これが後の応用力を支える土台となります。

講座名:記述解法マスター講座

- 役割・獲得目標:
ベーシック講座で習得したひな形を、具体的な事例問題で使いこなすための応用力を鍛えます。複雑な問題文から情報を正確に読み取り、答案に反映させる「問題処理能力」を高めます。
- 効果的な学習法:
講師の思考プロセス(問題文のどこに着目し、どう答案を組み立てるか)を真似ることから始めましょう。なぜその判断に至ったのかを常に考えながら演習することが重要です。

講座名:記述過去問解説講座

- 役割・獲得目標:
実際の過去問を用いて、より実践的な答案作成能力を磨きます。本試験レベルの問題に対応できるだけの思考力と解答作成スキルを完成させます。
- 効果的な学習法:
時間を計って解き、本番さながらの状況で実力を試みましょう。解説講義では、自分の思考プロセスと講師のものを比較し、ギャップを埋めていく作業が効果的です。

講座名:記述・択一パーフェクト12

- 役割・獲得目標:
学習の総仕上げとして、択一と記述を融合させた総合的な演習を行います。科目間の知識を横断的に使いこなす力や、難問に対応する応用力を最終的に完成させます。
- 効果的な学習法:
これまで学んだすべての知識を総動員して問題に取り組みます。自分の弱点分野を最終確認し、本番までに克服するための課題を見つけ出す絶好の機会です。

講座名:実力確認答練

- 役割・獲得目標:
本番同様の制限時間の中で問題を解く訓練です。時間内に解ききるためのペース配分や、自分の苦手分野を客観的に把握し、弱点を補強することが目的です。
- 効果的な学習法:
常に本番の緊張感を持って臨みましょう。結果の点数だけでなく、時間内に解ききれなかった原因や、ケアレスミスの傾向などを徹底的に分析し、復習に時間をかけることが最も重要です。

講座名:模擬試験

- 役割・獲得目標:
本番と全く同じ形式・時間の中で、実力の最終チェックを行います。時間配分の最終調整、解く問題の優先順位付けといった、本番で実力を最大限に発揮するための戦略を確立することが最大の目標です。
- 効果的な学習法:
必ず本番と同じ条件で受験してください。そして、模擬試験で最も大切なのは「復習」です。点数に一喜一憂せず、間違えた問題を一つひとつ潰していく作業が、最後の最後で合否を分けます。

講座名:重要法改正総ざらい講座

- 役割・獲得目標:
試験年度の法改正は、本試験で狙われやすい重要ポイントです。独学では追いかけていく最新の法改正情報をインプットし、万全の態勢で本番に臨むことを目的とします。
- 効果的な学習法:
直前期に短時間で集中して受講し、これまで学習してきた知識を最新の情報にアップデートしましょう。テキストの該当箇所に情報を集約しておくことで、効率的に復習できます。

段階的に実力を引き上げる記述式対策

アガルトのカリキュラムは、特に受験生が苦戦しがちな記述式対策において、難易度の異なる講座を組み合わせることで、無理なくステップアップできる構成になっています。具体的には**「入門総合講義(付属の書式ひな形集)」「記述解法ベーシック講座」「記述解法マスター講座」「記述過去問解説講座」「記述・択一パーフェクト12」**の5段階を通じて、基礎の基礎から本試験レベルまで、段階的に実力を引き上げることが可能です。

第3部: 合格後のキャリアと実務

1. 独立開業までの流れ

司法書士のキャリアとして最も魅力的な選択肢の一つが「独立開業」です。自分の裁量で仕事を進められ、努力次第で収入を大きく伸ばせる可能性があります。また、定年がないため、生涯現役で専門家として活躍し続けられることも大きな魅力です。

ただし、成功のためには周到な準備が不可欠です。専門知識に加えて、営業力や経営者としてのスキルが求められます。ここでは、開業までの具体的なステップをより詳しく解説します。

▼開業までの一般的な流れ

1. 実務経験を積む(2～5年が目安)

合格後すぐに独立するケースは少なく、まずは司法書士事務所などで実務経験を積むのが一般的です。この期間は、単に手続きを覚えるだけでなく、将来の独立に向けた重要な準備期間となります。

- 業務スキルの習得: 不動産登記、商業登記、相続案件など、できるだけ幅広い業務を経験しましょう。特に、顧客との面談、見積書の作成、請求業務といった一連の流れを肌で学ぶことが重要です。
- 事務所運営の学習: 先輩司法書士がどのように顧客を獲得し、事務所を経営しているのかを間近で見ることで、経営者としての視点を養います。
- 人脈形成: 勤務先で関わる金融機関の担当者や不動産業者との関係は、将来の独立後の貴重な財産になります。

2. 司法書士会への登録と新人研修

司法書士として業務を行うには、日本司法書士会連合会および各都道府県の司法書士会への登録が必須です。登録にあたっては、新人研修の受講が義務付けられています。

- 中央新人研修: 全国の合格者が集まり、司法書士としての倫理や心構え、制度の概要などを学びます。
- ブロック新人研修: 各地域ブロックごとに行われ、より実践的な講義やグループディスカッションが行われます。
- 配属研修: 各司法書士会が実施し、実際の司法書士事務所でOJT形式で実務を学びます。

3. 開業準備(事業計画の具体化)

実務経験を積み、いよいよ独立を決めたら、具体的な準備に入ります。

- 資金計画: 開業にはまとまった資金が必要です。事務所の敷金・礼金、PCや複合機、専門ソフト(高額なものが多い)などの設備投資、当面の運転資金(数ヶ月分の家賃や生活費)を含め、少なくとも200～300万円程度は準備しておく安心です。

- 事務所の選定: 法務局や駅からのアクセス、顧客層などを考慮して場所を選びます。最初は自宅開業やレンタルオフィスでコストを抑えるという選択肢もあります。
 - 事業計画の策定: どのような業務を専門にしたいか(相続、会社設立など)、ターゲットとする顧客は誰か、どのようにして顧客を獲得するか、といった戦略を具体的に練ります。
4. 営業活動の開始(信頼獲得の第一歩)
- 事務所を開設したら、顧客を獲得するための営業活動が始まります。司法書士の営業は、信頼関係の構築が基本です。
- ウェブサイト・SNSの活用: プロフィールや業務内容を掲載したウェブサイトは、現代の「看板」です。専門分野に関する情報発信(ブログなど)は、信頼性の向上に繋がります。
 - 挨拶回り(人脈の活用): 地域の金融機関、不動産業者、税理士や弁護士といった他の士業の事務所を訪問し、協力関係を築きます。勤務時代に築いた人脈がここで生きてきます。
 - 地域の活動への参加: 商工会議所や地域の経営者団体などに参加し、専門家としての認知度を高め、人脈を広げていくことも有効な手段です。

2. 組織内での活躍(勤務)

独立開業だけでなく、組織に所属して専門性を発揮する道も多様です。特に合格後すぐは、安定した環境で実務経験を積むことが重要になります。

- 司法書士事務所: 最も一般的なキャリアパスです。先輩司法書士の指導のもと、登記業務をはじめとする多様な実務を経験し、専門家としての基礎を固めることができます。
- 関連分野の専門事務所: 弁護士法人や税理士法人など、他の専門家とチームを組んで働くスタイルです。登記だけでなく、より複雑な法務・税務案件に関わることができ、専門性の幅を広げられます。
- 一般企業の専門部署: 法務部や総務部などで、契約書のレビュー、コンプライアンス体制の構築、商業登記手続きなど、企業活動に不可欠な法務の専門家として活躍します。

組織で勤務する最大のメリットは、安定した収入を得ながら、実務の最前線で学べる点です。将来の独立を見据えている場合でも、まずは勤務司法書士として経験を積むことが成功への近道と言えるでしょう。

3. 先輩合格者の声

ケース1: 働きながら合格したAさん

- 学習スタイル:
平日は通勤時間と帰宅後の2〜3時間、休日は8時間以上を学習に充てました。スキマ時間を活用するため、常にスマートフォンで講義動画やデジタルテキストを確認できるようにしていました。
- 合格の秘訣:
「インプットとアウトプットのサイクルを止めないこと」です。講義を聴いたらすぐに該当範囲の過去問を解くことを徹底し、知識の定着を図りました。
- 後輩へのアドバイス:
仕事との両立は大変ですが、学習を習慣化できれば必ず道は拓けます。自分を信じて続けてく

ださい。

ケース2: 子育てと両立して合格したBさん

- 学習スタイル:
子どもが寝た後の夜間や、早朝の時間を中心に学習時間を確保。家族の協力も得て、週末は集中できる環境を作ってもらいました。
- 合格の秘訣:
完璧を目指さず、限られた時間で「合格点を取ることに」集中しました。予備校のカリキュラムを信じ、指示されたこと以外には手を出さなかったのが良かったと思います。
- 後輩へのアドバイス:
時間がないことを言い訳にせず、今できる最大限の努力をすることが大切です。応援しています。

ケース3: 大学在学中に合格したCさん

- 学習スタイル:
大学の授業以外の時間は、ほぼ全て司法書士試験の学習に費やしました。長期休暇を利用して、集中的に学習を進めたのが効果的でした。
- 合格の秘訣:
早い段階から記述式対策に着手したことです。択一式の知識が固まるのを待たず、基礎的なひな形学習を並行して進めたことで、直前期に焦らずに済みました。
- 後輩へのアドバイス:
若いうちは吸収力も高いので、思い切ってチャレンジする価値は十分にあります。頑張ってください。

4. 合格後に必須となる「実務能力」

司法書士試験で問われるのは、あくまで法律の「知識」です。しかし、実務の世界では、その知識を顧客のために使いこなす能力、すなわち「実務能力」が求められます。このギャップを理解し、埋めていく努力が合格後のキャリアを大きく左右します。

▼実務で求められる具体的な能力

- コンサルティング能力: 顧客の話を丁寧にヒアリングし、法的な課題を整理して、最適な解決策を提案する力。
- 書類作成ノウハウ: 法務局や裁判所に提出する書類を、正確かつ迅速に作成する技術。
- 関係各所との折衝スキル: 銀行、不動産業者、他の士業など、関係者と円滑にコミュニケーションを取り、手続きを進める調整力。

これらのスキルは、合格者向けの研修や実務講座で体系的に学ぶことができます。例えば、実際の案件を想定した書類作成演習や、顧客獲得のためのマーケティング手法など、実務に直結する内容が提供されています。

試験合格はゴールではなく、プロフェッショナルとしてのキャリアのスタートラインです。知識に加えてこれらの実務能力を磨き続けることこそが、顧客から信頼され、安定したキャリアを築く上で最も重要な鍵となります。

